



1



2



3

コレクション展 目には見えない確かなこと

2010.9.11-2011.4.10

見えないものは見えるものと相矛盾するのではなく、呼び名がないといって存在しないというものでもない。かえって世界の中に見せることができなだけであって、自分たちをとりまく世界においては、まさに見えないものとして現されているだけである。美術の作品は、身の回りにある具体的なイメージを指し示すだけのものではなく、人間が経験を通じて直接的あるいは間接的に、在ることをどのように認識しているのか、ということである。それは作家が指し示す通りのこともあるが、あるいは全く別の経験によって、別の認識として体験されることもある。「コレクション展 目には見えない確かなこと」は、美術作品に現れる世界の認識の在り方を、見ることによって共有することを目指したものであった。

展覧会の冒頭を飾った八田豊の《流れ 02-35 / 02-36》は、視覚作用だけでなく身体全体の経験の共有を観る者に迫る作品である。八田は大学では油彩を学び、その後は塗料を厚塗りにした表面を同心円上に削り取る作品を制作していた。しかし、50歳代に入って視力を失い、それまでの「描く」という行為を捨てた。現在制作しているシリーズ「流れ」は、紙の原料となる楮の樹皮を素材に板やキャンバスに貼付ける手法による作品である。「目が見えないと手が目のようになって」という八田の言葉をそのまま解すれば、美術作品に現実性を与えるのは、決して視覚というただひとつの感覚によってのみ呈示されるわけではないことを示すものだ。かつて見た記憶を辿るというよりは、聴覚、触覚、嗅覚といった他の複数の感覚作用

を呼び起こし、想像の翼に力を与えて存在を確かなものにしたといえよう。

ヴィック・ムニーズの《ピクチャー・オブ・エア》は7枚の星座の写真から成る。タイトルに続く緯度、経度、方角、日付は、或る日／或る時／或る場所で起きた歴史的事実を示唆していて、例えば1789年7月14日にパリから眺めた星空、といった具合だ。1961年生まれの作家が、もちろん18世紀の星空を自力で撮影したわけではなく、NASAが開発したソフトによる配置の特定なのだが、注目すべきは、選択された場所や日付と写真によって何かが実在化してしまうところにある。

《color of river》は丸山直文による絵画で、2枚のキャンバスが上下に組まれ、全体が明るい色調で覆われた作品である。発色の良いアク



4



5



6



7

リアル絵具を直に綿布に滲ませながら描くステインングの技法によって、ストロークの痕跡よりも、自然に染み込んだ輪郭がぼんやりとした色の面が特徴的だ。地と図の境界が無化されていることで、例えば描かれているボートに乗る人のような図像であっても、経験から在るらしい物や形としてしか認識できない記号のようにも見えてくる。形や質として表されたものに対峙するとわきあがってくるさまざまなこと—エネルギーや速度といった理論では一応説明できることであっても、感情や記憶といった曖昧で抽象的なことなど—も、すべて一様に統合されている。絵画は特別な技術によって、二次元にありながら、描かれたものよりもっと奥深くに空間を見取ることができる。平面に描かれた風景に奥行きを見いだし、抽象化された点の集積に

時間と空間の流れを見るときは、見えるものの向こうにある世界に内在する別の側面を考えることである。しかし、それらはしばしば目に見ることはできないのだ。

「在るらしい」という気配までも含めると、美術作品を見ることで、私たちはずいぶんと拡張した世界を獲得できる。その世界のほとんどは無名に等しいが、人間の感覚が不完全であることがかかって認識に隙間を作って、異なるまなざしの交差が世界を豊かに彩るのだ。

(黒澤浩美)

1. 展示室13：展示風景

椿昇《エステティック・ポリューション》1990年
発泡ウレタン、粘土、木（ヤナギ）、塗料、他
H290×W360×D270 cm

2. 展示室6：展示風景

モナ・ハトゥム《地図》1998年
展示空間に合わせる

3. 展示室4：展示風景

ジェームズ・タレル《ガスワークス》1993年
ミクスト・メディア
H351×W351×D751 cm

4. 展示室4前：展示風景

菱山裕子《秘密の話》(部分)1999年
アルミニウム、プラスチック、ステンレススチール
各H130×W50×D55 cm (6点組)

5. 展示室5：展示風景

曾根裕《ホンコン・アイランド／チャイニーズ》1998年
大理石
H65×W108.5×D67 cm

6. 展示室3：展示風景

丸山直文《color of river》2003年
アクリル／綿布
各H113.5×W340.0 cm (2点1組)

7. 展示室1：展示風景

八田豊《流れ 02-35/02-36》2002年
椿(樹皮)
H193×W262 cm

1-7. 金沢21世紀美術館蔵